

文学部国際言語・文化学科（日本語・日本文学コース）

国際言語・文化学科・国語科教員採用試験に向けて

准教授 高木 伸幸

国際言語・文化学科では、国語科教員を目指す学生を対象とする教員採用試験勉強会を今年も開催しました。各県の教員採用試験の過去問題など、さまざまな国語の試験問題を解き、国語教職担当の高木による解説も参考にしながら、中学・高校国語の教科専門試験に対応できる学力を身につけていく勉強会です。平成22年度、旧国文学科の学生が集まってスタートした勉強会で、今年で4年目になります。

平成25年度は、前年度2月よりスタート、春休みに7回、4月以降は教育実習期間を除いてほぼ毎週実施され、7月の教員採用試験本番までに合計16回行われました。参加者は平均5名前後でした。

この勉強会に参加していた学生の中から、平成24年度、25年度の二年連続で、私立高校国語教員の新卒正規採用者を出すことができました。また既卒生で、やはりこの勉強会に参加していた学生から、公立中学校国語科の教員採用試験合格の朗報も届いています。教員をめざす学生諸君の夢の実現に向けて、この勉強会が少しでも後押しできるよう、今後も活動を続けていきたい所存です。

文学部国際言語・文化学科（書道コース）

指導案の制作と緊急時への対応

教授 荒金 信治

最近、指導案は「指導」を重視する傾向にある。「支援」の姿も「指導における支援」と姿を変え、生徒指導の中でも用いられている。教師は指導案の更なる充実に関心をもち、年々向上の一途をたどっている。しかし、現在の日本が直面する災害への認識と不安に対して授業の中での心構えに問題がある。建築物における地震対策や緊急時の訓練は各都道府県にて改良されているが、指導案の制作時に各教員が周知すべき対応と認識の度合いに不備を感じている。「地震や津波・緊急事態の発生・火災報知機の作動」等、また「教材計画より生徒の意欲や関心が低い・墨を大量に教室にこぼした・ICT機器の不備・教員がトイレにいきたくなった」等々。偶然ではなく、いつでもありうる事態への「教員の対応」や「生徒への配慮」が書道教員にも求められてくる。それは教論だけでなく、教育実習に参加する学生も周知しなければならない時代になったということである。

史学・文化財学科の取り組み

教授 松森 武嗣

「別府大学教員採用試験対策勉強会」は、顧問教員のアドバイスを受けながらも、「主体性」「連携」「継続性」の基本方針のもとで、中学・高校教員を目指している史学・文化財学科所属の有意な学生が参加し運営している勉強会です。

立ち上げ5年目である平成25年度の活動状況としては、事前に配付されている問題を予習しておき、当日には学生の輪番制による解答・解説と、それらに関する質疑応答も行って、知識の深化を図ってきました。主に、前期では日本史と世界史の各『30日完成問題集』を、後期では応用力養成として、教員採用試験の過去問（日本史と世界史）を解いてきました。また、週1回の自由参加日には中学社会の問題を扱いました。

ただ、今年は12月実施の歴史能力検定試験への受検希望者が定員を満たさず、準会場としての役割を果たせなかったことが残念です。奮って受検して欲しいものです。

今年度は、週2回の勉強会を4～5限目に戻して実施してきましたが、相変わらず参加者が少ないのが気がかりとなっています。

「出前実験」等への積極的参加

准教授 藤原 秀彦

発酵食品学科では、大分県教育委員会や、各高等学校と連携し多くの出前実験を実施している。平成25年度には、「遺伝子組み換え実験」や「大分スーパーサイエンスコンソーシアム サマーキャンプ」、「大分スーパーサイエンスハイスクール」等へ参加した。特に「遺伝子組み換え実験」は、大分県下の多くの高等学校を訪問し多くの高校生に遺伝子組み換え実験を体験してもらった。中高生が理科へ関心を抱くためには、中学校・高等学校における多くの実験実施が効果的であると考え、教職課程履修者にはこれら出前実験への積極的参加を促した。参加した学生は、高校生への実験指導を行うことで理科の面白さを伝え、時間内に実験を指導することの難しさを実感できたものとする。

国際経営学部国際経営学科

国際経営学科の取り組み

准教授 高木 正史

平成25年度では、下表のように6名の学生に教員免許状が交付される見込みである。

氏名	出身高等学校	教育実習校	交付見込免許状
安倍 竜馬	大分県立日出暘谷高等学校	大分県立日出暘谷高等学校	情報
伊崎 優太郎	大分県立白杵商業高等学校	大分県立大分商業高等学校	商業
浦田 真弥	熊本県立大矢野高等学校	熊本県立上天草高等学校	公民
土井 飛鳥	常磐高等学校	北九州市立広徳中学校	社会
野村 翔太	大分県立白杵商業高等学校	大分県立大分商業高等学校	商業、情報
山内 隆太	熊本県立熊本商業高等学校	熊本県立熊本商業高等学校	商業

平成25年7月31日（水）には国際経営学部独自の教職オリエンテーションを実施し、これらの学生に教育実習体験談をプレゼンさせ、教職を志す下級生達に、教職の厳しさと愉しさの双方を伝達する機会を設定した。

また、筆者は平成25年3月14日（木）に、明豊高校普通科総合進学クラス・経営情報コース（2-3組）において、同校教諭、戸高智幸氏と、「簿記」の授業の一環として高大連携研究授業を実施した。

これらの取り組みが今後の国際経営学部における教員養成課程に対して貢献することが期待される。

文学部教職課程

別府市立浜脇中学校学習支援ボランティア

准教授 今井 航

教職課程では、別府市立浜脇中学校からの要請により、浜脇中学の生徒に対して定期テスト前の2日間、第7期模擬授業の会の委員を中心に教職課程履修者をはじめとする大学生数名に呼び掛けて参加者を募り、放課後学習の支援を行った。平成25年度における期日とそのボランティア数を挙げれば、以下の通りとなる。

平成25年6月24日（月）：4名、25日（火）：2名

平成25年11月25日（月）：7名、26日（火）：4名

平成26年2月17日（月）：11名、18日（火）：11名

学校側からは、「生徒が喜んでいて」、「熱心に教えて頂けた」等、好評が寄せられている。一方、これまでの経験から、可能であれば毎回10名前後の参加が望まれている。大学の講義・演習が開かれている際にはその確保は難しいとも思われるが、できるだけ確保できるよう、より早めに予定されている日程を入手し、教職課程履修者を中心に幅広く呼び掛けることが課題である。